

このシリーズは、過去の定例会（今回は平成28年12月議会）での一般質問に関して、その後の状況をお知らせするものです。



建設中のグループホーム

答 養老町社会福祉協議会からグループホーム2棟目の建設に向け、関係機関に申請している。重度の障害者の入所希望があることを考え、支援方法や技術的な向上が求められる。これまで以上に社会福祉協議会と連携を密にし、職員の資質向上を図り、親亡き後も安心して生活できるように、より良い支援体制を構築している。

問 1棟目が開所して1年半以上経過し、入所者も保護者も大変喜んでいる。2棟目の入所希望者は重度の障害者が数名いる。指導員、世話人の指導への支援体制は。

「グループホーム
2棟目は」

この施設の建設に当たり、利用申込者の保護者、町社協及び町は重要事項について協議を行い、その結果平成29年9月に工事を着工、平成30年4月より運営を開始する予定です。今回のグループホームに入所される方は、重度の障がいがある方も利用される予定ですので、入所される方が新しい環境に一刻も早く慣れて頂けるよう、既に事業運営しているグループホームれんげの家のショートステイを活用し、外泊体験をして頂くようお願いしています。また、実際に支援を行う職員に対しても、体験利用を通じて利用者として接して頂き、障がい特性について事前に把握して頂くようお願いしている所です。

養老町社会福祉協議会が養老鉄道美濃高田駅東側に建設中の障がい者施設は、国・県及び町の施設設備補助金、寄付金を活用し、障がいのある方が住み慣れた地域で生活するため共同生活援助（グループホーム）と、障がいのある方が短期間の施設入所を行う短期入所（ショートステイ）の併設型の施設です。

「つなりました」

第1回養老町子ども議会を開催

平成29年12月6日 午後4時より 養老町役場4階議事堂において

養老町教育委員会は子ども達が養老町の将来について考え、願いや想いを伝えることを目的とし、高田中学校3年8名が議長と議員になり、意見発表をしました。生徒は本年度作成された「ふるさと養老テキスト」を参考にしながら、夏休みも活用しグループで調査・研究してきました。



最初に大橋町長は、「学習の成果を発表していただき、皆さんの想いを大切に、役場で反映できることは反映していきたい」と述べられました。また、青山議長は、今全国で問題になっている町村議会議員のなり手不足の問題に触れ、「将来、もしかしたらその場所

に座っているかもしれない、10年後20年後にぜひ活発な意見を出してほしい」と話しました。



第1回目となる今回は、中学生が意見を発表し、それに対し、町の担当課より現在取り組んでいることを踏まえ感想を述べる、という形をとりました。

中学生の主な意見(抜粋)

- ・オンデマンドバスのコーヌ拡大と予約方法の改善について
- ・お年寄りが住みやすい町にするには
- ・通学路の危険箇所
- ・養老鉄道の魅力を発信

- ・観光動線について
- ・養老天命反転地のPR動画作成について
- ・ひょうたんの具体的な活用方法について
- ・養老町の良さをフラワーメッセージで発信
- など、多数の意見を発表してくれました。



どの生徒も元気に堂々と発表し、プロジェクトや手書きの地図などを使い、中学生らしく分かりやすい内容のものでした。

総括で並河教育長は、「養老改元1300年という記念すべき年に第1回子ども議会を開催することができ、大変うれしい。

議会に対しての意見

シリーズ 23

このシリーズは、町内の各種団体の代表や副代表等の方へ、編集委員が意見をお聞きし、その記事を掲載するものです。

住民の声

ある本には、地方議員は、良くも悪くも「閉ざされた世界」、つまり、箱庭の中で権力というおもちゃで遊んでいるだけ……と。町民の血税を一時的な考えや感情で無駄なことに使うのではなく、地域の将来を長期的に見据えた有意義なことに使ってもらいたい。地域住民の意見を、常に的確にとらえ、議会（議員）の本来の役割を果たすべく、意識の改革と一層の活性化を切望します。

議会とは、住民の代表機関であり、最高の意思決定機関。巷では、パワハラ・セクハラ問題、政治活動費の不正使用等私利私欲で個人的な問題ばかりが議会で審議されていると思っている住民が多いのでは。本来、地域住民の声を聞いて課題を見つけ出し、それを行政に提案してより良い町づくりに役立てるための議論が重要だが、行政の言うがままが実態では。

(Y・Kさん)

平成27年定例会で議員より「ふるさとテキストの作成は」と「主権者教育は」の質問をいただき、郷土に誇りと愛着を持ち育てほしいという願いで、今年度「ふるさと養老テキスト」を作成した。また、養老町の魅力を改めて確認できた、養老町がもっと好きになった、という生徒の感想を聞き、目的が達成できたと感じた。来年以降も継続していき、今後もふるさと養老を学び、地域の活動に積極的に参加し、前向きな提案活動をしていただきたい」と締め括りました。



議長を務めた生徒は、「挨拶をすることで高齢者の方との交流が増え、互いの理解が深まることや、一

人一人が交通安全の意識を高く持つなど、自分たちでできることが多くあることを学んだ」

「議会に出席するにあたり、養老町について改めて詳しく調べることができた。自分で考えるだけでなく、積極的にできることをやっていく事が大切」と最後に感想を言い、子ども議会は終了しました。



今回の子ども議会でも中学生より観光動線等の提案があり、観光パンフレット作成業務委託を年度内に着手できるよう、第4回定例会で、本町観光パンフレット更新・作成するための補正予算が可決されました。